

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和6年度 第3回草津市社会教育委員会議
日 時	自 14時00分 令和7年2月27日(木) 至 16時00分
場 所	草津市役所8階 大会議室
出 席 者	委 員：四方委員、川中委員、木戸脇委員、柴原委員、 茶木委員、駒村委員、中村委員、奥井委員、 岡田委員、香川委員、羽仁委員、則武委員、 望月委員 事務局：藤田教育長、岸本部長、安藤総括副部長、菊池理事、 学校教育課 西田課長、 生涯学習課 古川課長、山田課長補佐、河合主事、平塚主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	☒ 有（別添のとおり） ☐ 無

1 教育長挨拶

【教育長】

本日は大変お忙しい中、令和6年度第3回の社会教育委員会議に御出席賜りまして誠にありがとうございます。

本日も3回目でございますけれども、少し机の上を見ていただきますと、ワークショップ的な会議になりますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて皆様ご承知の通り、本市では今年度、E S D推進関連ということで、全ての小・中学校で取り組みを行ってきております。

去る1月23日クレアホールにおきまして、E S Dフェスタというのを開催させていただきました。クレアホールと各小・中学校をオンラインで結びまして、約1万人の子どもたちが参加しました。その中で子どもたちが実際地域のいろんな課題や現状から自分たちができることを実践しようということを各校の取り組みを発表していただいて、それぞれ共有をしたところでございます。

また先週にはコミュニティスクールと地域協働合校の全体研修会を開催させていただきました。地域コーディネーターの方からご発表いただいた中で、学校運営協議会の中で毎回地域連携について熟議を重ねていただいておりますが、その結果、地域連携が非常にスムーズになってきたという声があったり、また、子どもたちが地域を舞台にした活動によって子どもたちから元気をもらった、という声が地域からも上がってきているというよう

な御発表がございました。そういったことから、これからどの学校においてもこの活動が進んでいく可能性が高まっているということもおっしゃっていただきました。

こういった学校におけるスクールE S Dの手法を、今回、地域での地域協働合校に取り入れることについて、前回の現地視察の際に皆様からいただきました御意見をもとに、今日は事業展開をしていく上でも、ポイントなどをまとめていただきたいと考えているところでございます。

今までとはちょっと違う会議の形式になりますけれども、どうか本日も皆々様の活発な御議論をいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、開会に当たりましてのご挨拶をさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 今後の地域協働合校の展開について【資料1～資料2】

【事務局】

(資料1・2の説明)

【委員長】

ありがとうございました。ただいまの説明内容につきまして御質問御意見等ございますか。では、今説明いただきましたが、2グループにわかれて今から意見をまとめていくということになります。こちらについても事務局の方から説明をお願いします。

【事務局】

(グループワークの説明)

【委員長】

第2回の会議は、視察込みの会議でしたけれども、そちらの方で出た意見を資料2の方に挙げていただいています。①②③と分けてはいますが、これにあまりこだわらずに出てくる意見をそれぞれのグループでグルーピングして行って、意見を整理していこうということになります。何か御意見御質問等ございますか。

特になければ、今から2グループにわかれて40分、14時55分を目途にそれぞれのグループで作業したいと思います。では、お願いいたします。

(2チームによるグループワーク)

【委員長】

それぞれグループワークを40分間行ったということで、まずどういう風にまとめたか、それぞれの班から発表していただきたいと思います。では、Aグループからお願いし

ます。

【H委員】

Aグループは、まず、大まかに機会・情報・企画・人で4分割しました。

まず、機会なんですけども、機会の中で多かったのが、気軽に参加できるという部分で、参加してくれる子どももボランティアであったり、我々大人もそうなんですけども、企画という部分でも参加しやすいイベントでないとやはり人が集まらないという意味で、参加しやすいのはかなり重要なんじゃないかなと思いました。

また、子どもと大人が出会うと書いていますが、親子で考える機会等の機会作りが大切なのではないかなと考えました。

【J委員】

続いてのグループが、情報です。情報の中でも二種類あると思っていて、一つ目が、課題の共有、課題を知ってもらうことで、もう一つが、今やっていることだとか今既にある取り組みの情報を発信するということです。それに対する手法としてあらゆる手段を取るとか常に最新情報をアップデートするとか、SNS、ポスター、会議などを使うという手法のところを合わせて情報というカテゴリになりました。

【F委員】

次に人というグループですが、人があって初めて企画が生まれてくる。それからいろいろな機会、そして情報発信等をするので、やはり人というのが一番大事、真ん中に来るということです。そしてその中の、人があって初めてコーディネートしていける、それによって企画・機会それから情報になるということで、私たちは人を真ん中に持ってきました。

【B委員】

企画は、いろんなものがあるんですが、子ども向けの場合と、大人向けの場合と、どちらにも向けているという3種類に分けました。以上です。

【委員長】

では、Bグループお願いします。

【A委員】

身近なことから始める中身に、情報を得て、テーマを設定するというのがあるのですが、何かの情報を得るテーマを設定するためには、情報を知るところからということです。

子どもが？大人が？発信と書いているところは、自分の解釈なのですが、子どもが何かを発表したことで大人が刺激を受けたり、あるいは大人が発信したことで子どもが刺激を受けたりして情報を得ることを順番にしていくのかなと考えました。そこに個性とか、得意なことを発掘して今まで参加してなかった方に参加してもらえよう機会が作れるといいなということを考えました。

【D委員】

矢印がどこもついていると思うのですが、何を伝えるか、どのように工夫した発信方法があるか、またそれを誰に伝えるかっていうようなことを矢印で表しています。子どもに関することを集めているグループでは、子ども主体で考えているというようなものや、子どもが主体的に自分が考えられるようになると、周りのたくさんの大人に支えられていることに気づいたりとか、主体的な活動を作っていける、それが子どもの成長につながるのかなということをまとめています。

【K委員】

私が担当したところは、親子や保護者、PTA関連のところだったのですが、まず、親子が参加できる工夫を凝らすことによって、子どもたちに寄り添って一緒にできることに繋がっていくので、親子だけでなくそれ以外の大人が子どもと関わるができるというのではということになりました。

また、地域団体・地域住民の関係性というところがありますが、まちづくり協議会や学校運営協議会が協力し合いながら、問題解決の方法を話し合う場を作る必要があると思いました。

また、コーディネーター関連のところがあるのですが、全てのことを見守りながらとか、運営しながらというのを、コーディネーターさんに担っていただく必要があると思ったので、コーディネーターさんを育てるのが大切なのではないかと思います。

【副委員長】

今パーツごと聞いていただけてますけれども、大きくは地域協働合校への大人の参加をどういう風に広げていくのかっていうのが中心にありまして、誰でも参加しやすいとか、新しい参加者を入れていくっていう話があって、そのためには、こういうことを気づいたりとか、そういう機会があるというような、最初の話に繋がっていくものになっています。でもこうした場合、大人の参加っていう意味では保護者とか、親の参加をどういう風に進めていくのかとか、あるいは親ではないけれども子どもに関心があると地域の大人にどう参加してもらおうのかという話があって、でも全ての中心はやっぱり面白そうとか、やってみたいことができるっていうことが大切だになっていうことがあり、その結果作られた場が子どもの学びや成長に繋がるよねという話になっています。それらがちゃんと地域

に情報発信されないと、多くの人が知らないことになってしまうので、きちんと関係者にも伝えていく必要性があります。

また、地域協働合校の取り組みだけでは、地域の問題を解決したりとか、新しい地域が生み出されたりしないので、学校でこんなことやったから地域でもこういう風にやってみましょうという形で地域にもリレーしていくと良いと考えました。Bグループ全体の話としては、以上です。

【委員長】

思っていたより2グループが違うものが出来上がってきたので、コーディネーターや情報発信の部分は重なっているところもありますが、これを一つにするというのは割と難しいですね。

【事務局】

それぞれ発表してくださって、同じものはグルーピングしてくださった中で、こういう切り口大事やねっていうのをそれぞれ出してくださったと思っています。

人の話であったり、企画をこうしようだったという、ベースの部分は今発表を聞かせていただいている、あらかたAグループBグループで基本は同じところがあるなと思っています。KJ法でも一つにまとめるということは、あまりしないと思います。ただ、事務局でもう一度新たに確認させてもらいながら、来年度の5月か6月ぐらいにもう1回見返すまでに、正副委員長さんと事務局の方でお話をさせてもらおうと思っています。実際来年度について言うと、小学校区の方で今日実際に出た意見を大事にして、地域版ESDのモデルとして進めさせていただこうと思っているので、まとめた意見を改めて次の会議でお見せしながら、そのときにこういうことを大事やねっていうのを事務局も思いながら、地元と一緒に作っていく形で進めさせてもらうような形で良いでしょうか。

【委員長】

はい。私としてはそれで結構かと思っています。

【G委員】

今日たくさんいろんな意見を出して、付箋を一生懸命貼り直したりしていたのですが、みんながこんな風に思ってくださってるのはわかるわかなと思っていました。

実は私、地域コーディネーターも4年ぐらいさせてもらっているのですが、やっぱり地域と子どもたちを結びつけるにはどうしたらいいんだろうということから始めて、ボランティアというくくりではなくて、学校に来てくださる人をとにかく増やすということで、学校でこういった事業があります、来たい人はどうぞみたいな感じでやらせてもらっています。その過程で、たくさんの方が来てくださるようにはなったのですが、一つ難しいの

は、いつもスクールE S Dの研修でもコーディネーターの会議でも「地域の課題の発掘」ということを言われます。課題って何なんでしょう。もう一つ、こんなことが地域の課題っていうんだよっていうことが見えない。課題は、問題点という意味なのか、それともこういう素晴らしいものがあるということの子どもの学びに繋げるのか、これが課題という問題点やから、地域としてうまく問題点をなくしていくために、地域も子どもも一緒になって、その地域の課題に取り組んでいくのか、また、その地域の課題って一体何でしょうといつも思うんです。だから、課題解決のために、地域協働合校で、子どもと地域の大人とみんなで頑張りましょうっていう、そのためにコーディネーターさん頑張りなさいというのはいつも言われることなんですよね。それを具体的にここの地域の課題をどういう風に見つけるのかがわからない。だからコーディネーターが走って考えてこいというものなのか、地域コーディネーターが、学校とか子どもたちに対して、こんなんがいいと思いますよと提案するのか。

学校にこんなんしませんかという思いはいっぱいあるけれど、学校にはカリキュラムもありますし、時間も限られているので、そこまでできないということがあります。だから私は学校の先生たちがこんなんいいと思いませんか、そのためにこういう人材や地域の方を見つけてほしいんですということであれば探しますというやり方で、話し合いを深めていって、一つの事業を進めています。なので、こっちから事業を提案しても、それはちょっとということは学校にはあると思うんです。課題は解決していきたいけど、根本的にどうしたらいいのだろうと思っています。

それと、南笠東学区は、地域協働合校をまちづくり協議会が行っている第1分科会と小学校を主にした第2分科会っていうのがあるんです。それも、やり方が違うって言ったらおかしいけど、まちづくり協議会で行っている部分はまちづくり協議会の人たちで考えて、大人も呼べるやつやろうよって言って、企画してやったださっています。学年も全部の学年が参加できる事業をやるんですけど、それは南笠東小学校でやるやり方とは違うというのがあります。それを南笠東学区は一緒に考えて、小学校でも繋がりのあることができる。まちづくり協議会でやった繋がりのことを小学校でもできる、そういう風なことを考えていきたいよねっていう話し合いはしている。だからその辺がどこまで話していったら、結局地域の課題を解決するには、どうしたらいいのだろうと思っています。コーディネーターとしては悩んで寝られない日もあるという、それぐらい悩んでいます。なので、その根本的なものをまずみんなで共有し合って、じゃあこれを解決していこう、この問題に対してどうしていこうっていう、根本的なものがもうちょっと知りたいです。

【事務局】

学校教育課でございます。日頃から学校教育、特にE S Dに御協力いただきありがとうございます。

地域課題は、まずは学校でのE S Dにつきましては、学校が主体者です。子どもが学び

の主体者ですし、それを支えるのが教員なので。ですので地域課題を見つけたりそれに取り組んだりするのは、基本的に学校がするものです。ですので困難があるからということ
でアイデアを提供していただくのはコーディネーターさんをお願いしたいところであ
り、ありがたいことなんですけども、でも基本的には先生が動かなければ話になりませ
ん。例えばこの前のE S Dフェスタの常盤の健康体操とかもありましたけれども、あれも
地域の中で常盤学区は高齢者の割合が高いということをきっかけに、では何ができるかな
っていうことをこれも教員の一定描いたデザインのもとに、子どもが、じゃあ私たちはこ
んなことができるよねっていうことを考えて学習を組み立てていってますので、ここま
でをコーディネーターが全部してくださいという話では当然なくて、そのときに地域の健康
体操をされている方と出会って意見をもらいたいな、そしたらそこと繋ぎましょかって
いう話をコーディネーターさんがしていただくとか、そういうような役目をコーディネ
ーターさんに、地域の方をいろいろご存じなので繋げていただきたいと思います。

地域課題って大きく構えたら、なんか大それた問題で、大人ですら解決できないのに子
どもが切り出していったら、あっという間に解決しちゃったみたいなの、そんなことはまず
まずないと思うんですよね。だから足元に見えている小さな小さな課題でいいので、子ど
もたちが地域の素材の中から、例えば、登校をしているときに、この辺りちょっと危ない
と思ってるんだけど、ここは安全にするにはどうしたらいいかなというふうな生活の中か
ら気づいたことも地域にも課題になりますので、そういう足元にある子どもの気づける範
囲の課題を、地域の人と一緒に解決していくような、そういう学習を作っていってほしい
なというのが願いなんです。そうじゃないと子どもが与えられたり、あるいは自分のこと
と違う、どこか難しい問題に切り込んでいくけど結局できなかったとか、あるいは先生に
やれって言われたからやらされたっていう学習になってしまうと、子どもが自分たちで考
えて行動して解決したとか、やりきったんだっていう、達成感を味わえないと思ってる
ので、そういう学習をしていただきたい。ですので大人が描いて地域にこんな課題がある
よねっていうことを整理して持っておいたり、ある意味テーマという感じで課題を設定し
て、こういうテーマと一緒に学習を作っていきましょうよっていう課題を描いたり、そう
いう意味で課題を捉えていただきたいですし、今までやっていた地域協働合校の延長線上
にE S Dの学習が成り立っていると思っています。今私が語ったのは学校教育課として、
学校教育の中でのE S Dは、3年生ならとか、4年生ならとかいう感じで、学習のカリキ
ュラムの中でどうことができるかなということなんですけど、今日は地域の中で今おっ
しゃったように1年生から6年生まで幅広く見た地域の中で一緒に地域のことを考えたり
頑張っていきましょうという風に、さらに学校教育から少し広がって行って、地域の方
にどんどんこういうE S Dの学びが根づけばいいなという風なことで今日お話していただ
いてるのかなと思っています。

【副委員長】

難しい問いかけですね。僕は草津市を代表して言える立場ではありませんので、あくまで問いかけに対して、考えを返してみたいと思います。それについて他の皆さんから御意見をいただけたらと思います。

まず最初の問いかけは課題と何かという質問でしたよね。まず言葉の意味が何を指しているのかわからないという問いかけだったと思います。そこについて言うと、問題と課題は違うというのが私なりの認識ですし、言葉の正確な使い方としては違います。問題点はよくないところですね。ちょっと困ったなとか、ちょっとこれよくないよねっていうことを問題としています。いわばマイナスみたいなものですね。ただ地域には良くないところはマイナスだけじゃなくて先ほどおっしゃったように、地域にはこんないいところがあるっていうものもありますよね。そして、良くないところはマイナスで良いところがプラスだとした場合、地域を良くしていくっていうのは当然マイナスをなくすっていう活動も必要ですね。

もう一つはプラスを生かすことも必要で、うちの地域にこんなあんねんから、もっとこんなことやったらこんな面白いことできるよねとか、これまで地域の人が一生懸命こうやって伝えてきたからこれ繋がたらもっと今後の地域に意味があるよねっていうふうな、マイナスをなくしたりプラスを生かしたりする二つの種類が大きく地域の活動だと思うんです。具体的にそのマイナスをなくすために何すべきなのかっていうことが出てきますよね。あるいはプラスを生かすために何をすべきなのかっていうことが出てくる。この「すべきこと」が課題だと思うんですよね。

だから問題と課題は違いまして、問題点はマイナスだけ。でも課題となると、そのマイナスをなくすためにやるべき事柄とか、プラスを生かすためにやるべき事柄を課題というわけです。マイナスをなくすにしてもプラスを伸ばすにしても、自分の地域のプラスとマイナスを知るにはまちを探検したり調べたりしないといけないっていう作業があって、これは延藤安弘先生の受け売りですけど、地域の活動とかまちを育てていく活動は、たんけん・はっけん・ほっとけんというプロセスがあるとありましたけど、まず地域にいろいろ行って、こんな問題や資源がある、こんないいところ、良くないところがあるというのは探検しながら発見していくわけですね。

そしたらこれ勿体ないやんということでプラスを伸ばす活動を作る場合もありますし、これはやばいやんって言って、何とか解決しないとほっとけないということですが、ほっとけないと言ってもいきなりなくせとか、活かすってできないので何ができるかなっていうことをまずやろうということです。やってみたらとうまいこといった、あかんかった、次もっとどうしようかとなり、このたんけん・はっけん・ほっとけんのサイクルが、こうやったら面白いなとかこう意味あるなっていうことをどう気づけるかっていうことが大事だと思うんです。地域の担い手不足の話って、こういう場でやると真面目な話になりすぎて、そんな真面目な話みんなしんどいですよね。やり続けられないでしょうね。だから

たんけん・はっけん・ほっとけんというプロセスで面白いなとか、意味あるよなって気がつくところまでが学習である。実際さっき B グループの方が出された意見が本当にそうやなと思いましたけれども、学校で問題解決するというか、ちょっと動き出してることに刺激を得てとかそこからヒントを得て、地域は地域で子どもたちこういうことやったんだから子どもともここでやろうよとかみたいに生み出されていくというところが、流れの展開かなと思うんですね。コーディネーターの役割については草津市の考え方があるので私は踏み込みませんけれども、一つ目の問いというのはこんな風に整理したらどうでしょうかというお答えをさせていただきました。

【委員長】

課題をどう捉えるかっていうこと、それから地域コーディネーターの話ですね。それから、課題は課題として挙げたとしてもそれをどう解決するかっていう手段の問題、そういった辺りのことに関わって意見を出していただきました。全員でこれをやっぱりひとまとめにするのは難しいということで、先ほど事務局からありました通り、最終的には事務局と私と副委員長で一つにまとめるとしても、今回これやったことで、更にちょっと見えてきたこととかがあったり、あるいは疑問に思ったこととか御意見等があるかと思うので、この後一つにまとめていくのにぜひ参考になるような、御質問とか御意見等あれば出していただく時間にさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか？

【A 委員】

先ほどの課題のことなんですけども、うちの学校もなかなか子どもたちが課題を見つけて課題から行動するっていうところに悩みがずっとあって、教職員全体で話し合ったときも、どうやったら見つけられるかなっていうことを話していたんですけども、この前今までやってた総合的な学習の時間のやり方を少し変えた部分があったんです。

3 年生が毎年、地元のまちづくり協議会の方々をゲストに招いて、よもとの地区の歴史を教えてもらうんです。今回は最終的なまとめに 90 歳近い方にゲストに来てもらって、教職員がいろいろ聞き取ったこと、それから街道交流館の方に歴史的なことを聞いて、教職員がまとめたことを参考にして、子どもたちが壁新聞を作りました。大路今昔物語の壁新聞を作って、3 年生の子どもたちがわかったことを参観日に発表したんです。やり方は今までと違って、私が少し新しいなって思ったのは、子どもたちの感想の中に、大路地区はマンションが多くて、駅が近くて、お店がいっぱいあってということにしか気づいてなかったけども、こんなに歴史があるんだということがわかった。自分たちはこの歴史をもっと大人の人に伝えたいとか、大事にしたいという風に言った子がいたと聞いております。保護者の方がたくさん見に来てくださってたので、保護者の方に発信するっていうことができたかなと思っているんです。そこで循環が起こって、大人がまた興味を持ってくれるっていうようなことが少し起こると嬉しいなって思いました。

4年生はさらにもうちょっと踏み込んで、自分たちでタブレットでプレゼンをしまして、例えば第六保育所の跡地を学童の児童館にしてほしいとか、実現するかどうかかわからないけど、そういうふうなことを1人1人発信していくっていうのをやって、それも保護者の方がたくさん聞いてくださったので、そういった子どもの意見を大人が聞いて、またまちの問題意識を大人の方が持ってくれはってっていうような循環ができるといいなと思いました。

【B委員】

今年はE S D元年ということで20の小・中学校で始まったということですが、本当のこと言うとならE S Dっていう名前が新たに付けられて、何か新たなことをしないとイケないという思いが子どもにも大人にも教師にもあって、よく考えるとそんなこと昔からやってるやんということいっぱいあるんです。それがE S Dという名前がついているだけで、中学校でいうと9教科どの教科もE S Dをちょっと絡める、色をつけていくことは、すぐできるんですね。それをすごく構えてやってるのが現実かなというふうに思いますね。

私は中学校に来て2年になりますが、地域課題は一体何だろうというのが最初多分活動の始まりだったと聞いています。農村地帯のベジクサという有名な農産物があるんだけど、それは一体どんだけの知名度があるんですかと。全然知られてないじゃないですかと。京都の方にもいっぱい大きな料理屋さんとかにも出してる現実を知らない。そのベジクサの知名度を上げようというのを課題に設定したということです。

僕が思ってるのは、ネタを一つ作って、それが子どもたちがいっぱい集まってああでもないこうでもないって子どもで意見を交わすことが、一番の目的。地域の課題というそんなおこがましい。外の人間がやってきて、ここの課題はこうだとかそんなことじゃなくて、何かテーマを1個与えて、それをみんなが考えて課題を解決していくようなコミュニケーション力とかが子どもについていくことが目的だと思っています。だから、それを地域に当てはめて考えると、近年地域のコミュニティがどんどん薄れてる、まさにその都会的な地域であればもうなおさら。昔私が中高生の頃、青年団なんていうのがありました。中学生高校生あたりの年代が集会所などに集まって、関係ができ、地域で大人になっていく。地域のコミュニティがつくられたらそれで良いと僕は思っているの、そのために別に何をやってもいいと思います。学校で今までやってきたその9教科の教師がやる授業ではなかなかつかない力っていうのは事実そうかなと思います。

【委員長】

確かにちょっと1年勉強して課題解決できるぐらいなら、もうとっくに解決できるわけ。その解決することよりは何ていうか特に学校でやれることって多分種をまいてあげるのかなと思いますけれどもね。そこは全くその通りだと思います。

【E 委員】

私は常盤の出身でして、先ほど言ってくれたように常盤小学校の4年生が1組・2組分かれて体操を地元の老人会とか、いろんな方に声かけてやってるんですけども、本当に子どもたちがタブレットを見ながら体操の準備からいろいろと体操の順番を決めてやってくれています。体操を教えてもらいにおじいちゃんおばあちゃんが来られていて、もう早くから来られる人もいますし、またギリギリに来られる人も多いんですけども、本当に子どもたちがお年寄りに優しいということを今回感じました。また、活発に司会や案内をする人、体操の準備・順番を教えてくれる人がいて、個々についてもらってやってるので、本当に子どもたちが生き生きと動いてるなという感じがしました。若干おとなしい子はちょっと後ろに控えめなところもあるんですけども、子どもたちは事前受付が終わって、お年寄りを案内するところからしてくれていましたので、本当に今回の体操、見させてもらって本当に良かったなと思っています。ありがとうございます。

【C 委員】

草津市コミュニティ事業団です。今日のワークショップすごい楽しかったし、参考になりました。副委員長の先ほど課題の話、よく腑に落ちたんですけど、コミュニティ事業団で地域のまちづくり協議会さんのまちづくり計画を作るときのお手伝いを何カ所かさせてもらってる中で、副委員長がおっしゃっていただいた、いわゆる「地域課題とはなんぞや」って必ず出てくるので、マイナスの部分をどう補うか、プラスの部分をどう伸ばすかっていう視点でやるべきことっていうのをやってるんですね。本当にいろんな課題が出てきますので、例えば農業の跡継ぎ問題であるとか、なかなか子どもの出番がないような課題も出てくるんですけど、ここで出てきてる地域課題とまちづくり協議会で出てくることのギャップを一つずつ違和感として持っています。多分、G委員とか「その辺がすごくどうだろうな」って実は思っている。実際まちづくり協議会さんとか見ると、大体その課題を解決するために4つか5つぐらいの部会に分かれていろんな事業をされる。部会は環境や子どもの健全育成、地域の繋がりづくりなど、色々な部会に分かれるんですけど、大体今ここで喋ってるような課題に強い関心を持って、危機感を持っているような保護者の世代などは「子ども育成部会」っていうところだけに関わるんですね。僕の場合はそうなんです。健康福祉部会など高齢者を主に対象にした部会のところに、子育て中の世代の人って関わってこないの、委員会で話されているような課題感、例えば子どもと一緒に考えようとか、そういった部分に繋がっていかないですね。まちづくり協議会での事業展開ばかり。そこが僕、課題やなっと思っていて。でもすごく難しいことで、子どもや子育て世代の人がすごく忙しい中で、その地域の高齢者福祉の方と地域福祉のことに関わればいいんですけどね。でもそこまで行けないから、何かこういったことでも、例えば高齢者福祉の部会がお客さんとして子どもたちを呼ぶんじゃなくて、子どもたちと一緒に何かできないか、一緒になって子どもたちと考えるような時間を作れないかとかいうような

ことにまで繋がらんとなかなか難しいだろうなというのが実感としては思ってます。

この前コミュニティ事業団の広報誌で取り上げたんですけど、大路学区の地域課題の一つに、高齢者の人がスマホで情報をうまくキャッチできなくて、まちづくり協議会に使い方を聞きに来られるというのがあって、職場体験に来られた中学生の子に職員さんがスマホの相談会みたいなことやってみない？っていうことで声をかけて、今定期的にやってその中学生がどんどん増えてきているんですね。その中にはスマホをまだ持たせてもらってない中学生までいるんですけど、それでも大体感覚で教えられるんですよ。高齢者の方は、聞きたいことがいろいろありすぎるからスマホ講座じゃ駄目なんですよ。自分の今聞きたいことが違うから、なので一対一で、聞きにきた高齢者のスマホで教えてくれるので非常に人気があります。地域課題と子どもたちのまちづくり参加みたいなのところがうまくいってるパターンやなと思うけど、それでも一部の学区の中学生だけです。ただもう、すごく私はよかったなと思うのは、中学生にとっても、おじいちゃんおばあちゃん、年金の通知をスマホで受け取りたいんです。だけどこの中学生は年金って知らないのだから「年金って何ですか」という話になって、そこでその年金についてのやり取りがあります。じゃあこれやりましょうって言って説明書のページをめくりながらやっていくみたいな。だからそういう機会が増えていくと地域協働合校、子どもの地域における学びみたいなのところになっていくなと思ったりもしていました。

まちづくり協議会の中ではなかなか子どものことまで目が向けてられていないかなと。例えば貧困家庭の子ども食堂とか、そういった際立った課題に対しては目が向くのですが、一般的に子どもたちの持っている課題みたいなところに目が向けられていないのが現状かなという風に感じています。

【委員長】

親世代だけでなく、高齢者の世代も含めたもっと上の世代と子どもが関わって、地域の課題と子どもがどうクロスしていくのかという課題ですね。ありがとうございます。

特に今日ワークショップやって見えてきたこと等を御発言いただけると、今後まとめていく作業に役立つかなと思いますが、いかがでしょうか。

【K委員】

立命館大学学生コーディネーターをやっております。先ほど地域コーディネーターということもあったのですが、学生コーディネーターは学生と地域を繋げる仕事をしているのですが、課題というのはやはりどこも一緒に、課題をしっかり理解できてないのも一緒なんだと感じました。でもやはりまちづくり協議会さんとか、いろんなところと関わっていく中では、子どもたちに向けた課題というのは、まだまだ足りてないんじゃないかなと思っています。

今日もお話にあったのですが、子どもたちに対しても高齢の方に対しても、情報を伝

える方法がまだ確立できていないのが課題だと思っていて、子どもたちは中学生ぐらいになったらスマホを持っているんな情報を仕入れることができるのですが、高齢の方や小学生はまだスマホを使って地域のことを知るとか、そういう情報を知れていないので、そこをどうにかして知ることができるようにするというのが課題なんじゃないかなと思いました。

【D委員】

お話を興味深く伺ってたんですが、普段仕事としては保育の仕事をしていて、ここに出てきていた課題とか、今の話とは違うところにいる現状もあります。

今日のこのワークショップで言うと、先ほどおっしゃったように本当に考えていくこと自体とても楽しくて建設的な意見というか、面白さがあったんですけども、今回の展開についてということと、次回5・6月頃に取り組みについてというところで、何となく話題がすごく大きくて、ちょっとぼんやりしていつってしまうのかなという感じは受けていて、先ほどおっしゃったように、情報発信についてどうしていくとか、大人と子どもがもっと関わったら子どもが成長するのに何ができるとか、少し絞られると何かに対してもう少し会議の中身が深まるのかなと感じました。

【委員長】

出てきている文言の範囲が広いので、どれも被ってくるように見えてしまうっていうのかなと思いました。

【H委員】

BBSという団体から来ました。今日こうやってまとめてみてやっぱり真ん中に人があるように、人と人との関わりが大事なんだっていうことを再確認しました。特に大人と子どもが寄り添ってとか、そういう言葉がいっぱい飛び交ったんですけども、元々大人と子どものイベントや学校教育については関わってないのであんまり言えないんですけども、そういう機会があることで、子どもも学ぶことがあるし、大人である私たちも学ぶことがあると思っています。

私も子どもに関わる活動をしてきて思うことがたくさんありますし、下の世代だけでなくこういう活動をしていくことで、上の世代の方々から教えていただくこともたくさんありました。人が集まらないと、何も学びを得ることはないと思うので、そういう意味でもやっぱり参加しやすいとか、ハードルを下げるような活動を増やしていくことが必要なんじゃないかなと私は思いました。ありがとうございました。

【I委員】

草津小学校PTA会長です。さっき草津第二小学校さんのお話にもあったんですけど

も、草津小学校の子どもたちも今年は各学年、例えば防災について深く学んでいる学年とか、平和学習、自分たちの住んでいる地域の歴史を学んでいる学年とか、その学年によって様々なことをテーマに学んでいたのですが、そのいろいろ学んだことを、地域のまちづくりセンターをお借りして、誰でも聞きにきていいですよっていう形で自分たちで発表したりとか、保護者の方にこういうことを学びましたっていうのを発表する場を設けてくださったんです。

学校もその限られた時間の中でそうやってやってくださって、子どもたちも興味をもったことを、例えばもっと知りたいなってなったときに、さっきの意見の中でもあったんですけど、学校でやりきれなかった部分とかを次地域の中でもっと掘り下げて学べる機会があって、子どもがそれ興味があるから行きたいなって思ったら、じゃあ親も一緒に行ってみよっかっていうのとかで繋がっていけるなと思いました。ただそれだけじゃなくて、子どももアウトプットしていける機会っていうのが今の時代すごく大事なんじゃないかなと思いました。

やっぱり自分が子育て世代っていうのもあり、子どもと一番近いので、子どもたちが今こんなことやりたいって思ってるとか、こういうことに興味があるとかいうのを、もっと学校さんとも情報共有して、そこからコーディネーターさんに繋げていってもらえたらいいなと思いました。

【J 委員】

私自身立命館大学で職員をしていて、地域と大学を繋いだり、地域活動で子育て支援とかをやっています。その中で、今日の感想として、今日いろんな見えてきたことがあって、すごく共感するところがたくさんあるのですが、最終的にこれは誰がプレーヤーかなという疑問が出てくるのかなと思いました。私の中の勝手な解釈ですが、プレーヤーは1人じゃないと思っていて、みんながプレーヤーになったらいいなと思っています。

なので、この中でコーディネーターと名称がついている役職の方だけでなく、今、潜在的ないろんなことできる人が多分、草津市内にいっぱいおられると思うので、色んな人がアンテナを張ってそういう人を発掘して背中を押してその人をどんどんプレーヤーにしていったら良いんじゃないかなと思っています。

私自身は今日の話を聞いて、アンテナを張ってプレーヤーになり得る人を発掘していくことがこれから地域協働合校でも必要なんだなっていうのを感じてすごく勉強になったので、私の立場としては自分ができることと、自分ができないけれどこの人だったらいいんじゃないかなと思うことをアンテナ張って探していきたいなと思いました。

【F 委員】

今確かに課題がいっぱいあるのですが、最終的には人が人を作っていくというところなので、どこの地域もそれぞれの特色があって、高齢化の進んでるところとか、私は玉川な

んですが、玉川の場合は立命館大学の方がおられるのですごく活力があります。それと昔からの町並みで、少し年配の方がすごく活躍されてるところなんです。だから地域の良さ、歴史的なこととかを、すごく地域の方が率先して子どもたちに教えてくださってるところはすごく強みなのと、立命館大学の若い力を借りて学生さんたちとコーディネートしながら、子どもたちがその学生さんたちに憧れて次をどうしていったらいいとかそういう憧れを持つ意味ではすごくいい地域なんです、やっぱりどこも一緒ですけど次の課題はどうしてそれを次の世代に繋げていくか。私たちも次々繋げていきたいんですけど、高齢化で人の発掘というのはすごく難しい。ましてやPTAの解散や、人の繋がりがだんだん薄まっていくような感じがするので、それをどういうふうに魅力的なまちづくりに持っていくかというところが大切なことではないかなと思っています。

私たちは私の学校運営協議会とかまちづくり協議会の方で子ども文化教育部会というところで子どもたちと一緒にイベントをしていくんですが、一応こちらは企画はしますが、できるだけ子どもたちが自分で考えてどうしたらいいかっていうことを常に考えています。全部大人がやってしまうと楽かもしれないけれど、それでは子どもの発達はできないと思っているので。学校現場でもいろいろと工夫をされてると思いますが、具体的なことを考えていくのは学校と子どもたちだとも思っています。

今課題に思ってるのは、次の世代への繋いでいき方をどうしていくかというところが課題だと思っています。

【委員長】

では、時間になりましたので、後は事務局の方にお返ししたいと思います。お願いします。

閉会

【事務局】

閉会挨拶